



島大病院ニュース 2021年7月

ご報告

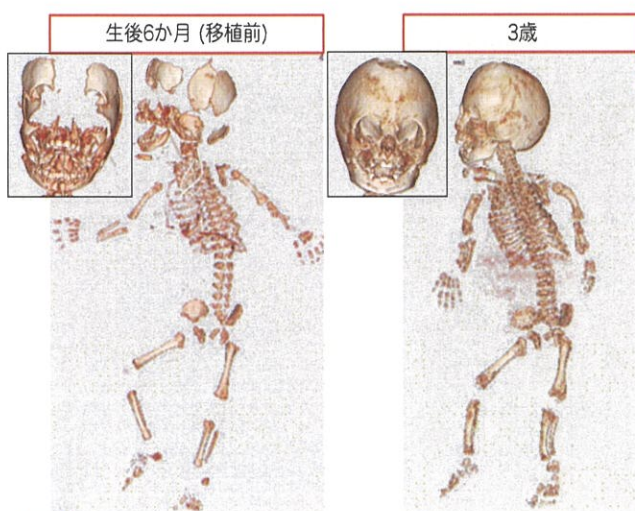
世界初の医師主導治験

「低ホスファターゼ症小児患者を対象とした 高純度間葉系幹細胞(REC-01)移植」を開始します！

小児科 診療科長 教授 たけたに たけし
竹谷 健

島根大学医学部小児科では、難病に対する再生医療を1つの柱にしております。今回、生まれつき骨ができない先天性骨系統疾患である、重症低ホスファターゼ症に対して、島根大学発バイオベンチャーであるPuREC(株)が開発した高純度間葉系幹細胞(REC-01)を用いた世界初の骨再生医療を医師主導治験として行います。

これまで、私たちは、重症低ホスファターゼ症の小児患者さんに通常の間葉系幹細胞(骨を作る細胞)を移植することによって**世界で初めて全身骨の再生に成功しています。(図)**しかし、残念ながら、骨の再生が正常レベルに達するまでの改善には至りませんでした。



Taketani T *et al.* Cell Transplant 2015

そこで、健康な子供たちと同じ骨を再生させることを目的として、再度基礎研究からやり直しました。その中で、PuREC(株)は極めて純度の高い間葉系幹細胞を分離する技術を開発しており、そのうち、骨への分化能の高い高純度間葉系幹細胞(REC-01)がこの疾患の骨再生に極めて有効であることを明らかにしました。その結果を元に、この度、**世界で初めて REC-01 を用いた骨再生治療を開始することとなりました。**

重症低ホスファターゼ症の小児患者さんは1年間に10人も生まれませんが、REC-01の骨再生がうまくいけば、他の先天性骨系統疾患の患者さんへの治療にも応用できる可能性があります。これからも難病の患者さんに寄り添って診療・研究を行って参りますので、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

問合せ先 **小児科 事務 TEL : 0853-20-2220**

